



シリーズ「教育を取り巻く社会の動向」

長崎県教育振興基本計画から

〈第二回〉

## グローバル化の進展

南島原市内には外国の方々約三〇〇人いらつしやる(国税調査から)とのことです。その他にも物価の高騰や製品が手に入りにくいことなどが国際情勢に左右されていると言われるなど、「グローバル化」の影響をよく感じるようになりました(人気の新車は二年待ちだとかー)。

県の教育振興基本計画には次のように記されています。



グローバル社会で活躍する人材を育成するためには、外国語によるコミュニケーション能力のほか、我が国と郷土に誇りを持ち、異文化に対する理解を深め、異なる文化を持つ人々と協調していく態度を身に付けさせることが重要です。

一方、本県の地理的条件や歴史・文化などから、次の利点が挙げられています。

- ・ 海外との長い交流の中で築いてきた深い友好と信頼関係がある。
- ・ 年間一三〇万人超の外国人が訪れ、在留外国人も急増している。

これを「チャンス」と見る人材の育成が求められています。

〈そこで、中学校(本校)では〉

上の教育振興基本計画にありますように「グローバル」人材の育成には、英語科の授業だけでなく、**異文化の理解**(社会科、美術科、音楽科、体育科、理科など)や**異なる文化を持つ人々と協調していく態度**(道徳、総合的な学習の時間など)の醸成・育成が必要です。このような中で学習指導要領にも同様に求められているのが「**教科横断的な学習**」です。例えば「小麦」を取り上げると、いろんな教科との関連があつて、小麦自体を知るだけでなく、世界情勢や身体栄養、資本主義の歴史や各国の文化、今のウクライナのことなどの理解にも広がっていく…。(実を言うと、これがなかなか難しい取組なのです…)まずは、教科横断的な授業を行う視点や教職員の時間的なゆとりをつくっていきたいと考えています。

なお本市では、次の支援事業がありますので、積極的に活用したいと考えています。学習塾等での受検も対象となりますので、ぜひ、活用していただけたらと思います。



### 《英語検定補助事業》

市では、児童生徒の英語力および学習意欲の向上を図ることを目的に、公益財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定の受験者の保護者に対し、検定料の全額を補助します。(年間一回)

## 「島鉄フェリー」

ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

口之津の人たちにとっては、港のある景色は日常のことだと思ふのですが、西有家に住んでいる私にとっては「いいなあ」とため息が出る羨ましい風景です。(須川港フェリーターミナル跡を横に見ながら通勤していますので…)

### 《島原鉄道フェリー》

カーフェリーとしては一九六六年八月一日運航開始。有明海の出口にあたる早崎瀬戸を通る。国道二八九号の海上区間を担っている。「フェリーくちのつ」(五四八t)、「フェリーあまくさ」(六二〇t)の二隻が両側の港を同時出航している。(Wikipedia、ニッポン旅マガジンから)



この先にある天草空港を使うと、福岡への最短経路になる!という利点をうまく活用できないかなあと素人ながらに思っています。

### 【お知らせ】市中総体対戦表について】

来る六月十一日(日)・十二日(月)に行われる市中総体の対戦表を学校ホームページに掲載しています。本年度は来場も声援もOKの大会です。ぜひ選手たちを会場で応援してくださいませます。ようお願いします。

